

音楽の隠し味 Op.7

このコーナーでは、作曲家や有名曲の意外な一面を知ること
でクラシック音楽をより楽しめる「隠し味」をご紹介します。

ピアニスト 白川 優希

第7回はブラームスです。

ドイツで活躍した作曲家で「ドイツの3B」として、同じ頭文字「B」のバッハやベートーヴェンと並んで讃えられています。が、実は彼が活動していた19世紀後半では、作曲家達は皆気軽に曲を書けないことが大きな悩みでした。なぜなら、新作を書いてもベートーヴェンと比較され、批評家にボロボロに言われてしまうことが目に見えていたからです。そこでブラームスは、過去の作品を徹底的に研究し、論理的なスタイルで作曲をすることにより評価を得ていきました。試行錯誤が繰り返された奥深い楽曲は、今も愛され続けています。今回はそんなブラームスの「厳しいレッスン」が隠し味です。彼の弟子とのやり取りを通じて、作品へのこだわりを見てみましょう。

当時、作曲家は作品を書くだけでなく、次世代に繋がる弟子をとり、その受講料で生計を立てる事が普通でした。しかしブラームスは、作曲で十分なギャラを貰っており、自身の音楽活動に専念したいという考えから、弟子を取りたがりませんでした。そんな中でたった1人だけ、弟子になる事が出来たイェンナーという青年がいます。



ブラームス

作曲家を志していたイェンナーは「是非自分の作品への感想をいただきたい」と、当時から評判だった偉大なブラームスに会いに行きました。元々彼の作品を見たことがあり好感を持っていたブラームスは、快くレッスンを引き受けます。そうして始まったレッスン初日、ブラームスは既にイェンナーの作品をくまなくチェックしていました。弟子は、師匠のどんな曲でも真摯に受け止める姿勢に感銘を受けました。それから、事前に細かく調べていない作品を教えてもらう事は一度もなかったそうです。

レッスンは非情なまでに厳しく、弟子は何度も目に涙を浮かべました。それでも青年は師匠についていきたいと切確琢磨します。どんなに厳しい事を言われても、皮肉や意地悪な事は無く、全て善意からくる言葉だと分かっていたからです。

前述の通り、ブラームスは音楽を論理的に作るということを徹底しました。土台が不安定だと、どんなに綺麗なメロディーでも魅力的にならないからです。彼は弟子が作ってきた曲を見ては「論理的に」間違いを指摘し、なぜ間違えているのか理由も必ず一緒に教えました。ただ、その指導は非常に辛く、日を増すごとに陰しさも増していきます。ある時は、

イェンナーが自信を持って提出した曲に対して「いいところなど何もない」と言い放つことがありました。またある時は、一度ダメ出しされた曲に手直しをしたものが再提出されたことに対して「新しい曲を持ってこい」と不機嫌になったこともありました。ブラームスは「一度完成してしまった曲を手直して良くなる事は稀で、大抵は悪くなる。毎日新しい曲を生み出し続けることが『仕事』なのだ。」と言っており、「ペンは書くためでなく、消すためにある。」と繰り返していたといひます。

ブラームス自身も、曲の中で辻褄が合わない点があることや、曲の終わりがこじつけのようになってしまうことを少しも許せませんでした。自身の作品が何曲燃やされたのか分からない程、書いては消す事を繰り返したのです。彼はいくつもの失敗を乗り越え、膨大な時間をかけて名曲を生み出していました。

だからこそ、彼の作品の構成力と奥深さは今でも色褪せることがありません。ブラームスの「厳しいレッスン」は作品の隠し味となっているのではないのでしょうか。

① おすすめの一曲

ブラームス / 交響曲 第2番

巨匠ベートーヴェンが亡くなってから、音楽界隈では「これから良い交響曲なんて生まれるのだろうか?」と絶望を感じていました。名だたる作曲家も交響曲(オーケストラで演奏される大規模で長大な曲)というジャンルだけは避けるようになっていたのです。そんな中で、生涯諦めずにこのジャンルに取り組み続けたのがブラームスです。彼が「交響曲」を発表するまでに、なんと40年もかかっています。

交響曲第2番は、明るい趣で当時の人々の心を掴みました。初演は大成功。拍手喝采が鳴り止まなかったそうです。全楽章聴くと40分位かかるので、まずは作業用として少し軽やかな気持ちで聴くと楽しめるのではないかと思います。何度聴いても論理的で奥深く、もっとこの曲を知りたいと思えるような作品です。『Brahms Symphony 2』で検索するといくつかの音源が見つかるので是非聴いてみてくださいね。

※参考文献

日本ブラームス協会(1997)『ブラームスの「実像」』音楽之友社
門馬直美(1999)『ブラームス』春秋社
ウォルター・フリッシュ/天崎浩二訳(1999)『ブラームス 4つの交響曲』音楽之友社
作曲家別名曲解説ライブラリー(1993)『ブラームス』音楽之友社
渡辺茂(1995)『ブラームス』芸術現代社



白川 優希 Yuki Shirakawa

横浜市立南高等学校普通科卒業。桐朋学園大学ピアノ科卒業。これまでに井上節子、川島伸達各氏に師事。阪急交通社「たびコト塾」有料音楽講座にて講師兼演奏。

メディア

- ・NHK BSプレミアム 特別ドラマ「黒蜥蜴 ~BLACK LIZARD」ピアノ演奏。
- ・テレビ朝日系列「はじめまして、愛しています。」ピアノ監修。
- ・フジテレビ系列「世にも奇妙な物語「シンクロニシティ」」ピアノ協力(自身出演・演奏)。